

高千穂違い

松崎 武志

第9回全国高等学校鉄道模型コンテスト（8月5日、6日）が終わった翌日から3泊4日の日程で、九州への家族旅行を計画した。私は今年度高校3年生を担当しているので、太宰府天満宮（福岡県）に合格祈願をし、あとは温泉巡りができればどこに行ってもいいと考えていた。一方、妻は「高千穂」に行ってみたくと話していた。そこで、JR時刻表のさくいん地図（九州地方）のページを見ると、「霧島温泉」の近くに「高千穂河原」という場所がある。ここへ行きたいのかと思い、博多・別府温泉（大分県）・霧島温泉（鹿児島県）に宿泊する計画を立て、旅行代理店を通じて往復の航空券とそれぞれの宿泊地でホテルを予約した。

不規則な動きをして歴代3位の長寿となった台風5号の影響が心配されたが、8月7日（月）羽田10:15発福岡行の日本航空313便は無事福岡空港に到着した。その日は博多に住む友人夫妻と会い、福岡ヤフオク!ドーム近くのホテルに泊まった。2日目は博多駅からソニック21号に乗り、別府に着いた。そして、別府温泉の鉄輪（かんなわ）にある旅館に泊まった。3日目はソニック9号とにちりん9号を乗り継ぎ、宮崎空港駅へと向かった。宮崎空港で15:30にレンタカーを1日借り、そこから霧島温泉へ行き、翌日宮崎空港に戻る途中「高千穂」に行けばよいと考えていた。

しかし、特急にちりん号の車内で私は妻と話しながら、どこか話が噛み合わないことに気づいた。妻が行って見たかったのは宮崎県の「高千穂峡」であり、そこは霧島温泉から宮崎空港までの寄り道で行ける場所ではなかった。宮崎県といっても熊本県の阿蘇に近く、大分に近い延岡から車で行くような場所だった。私は自分の無知を妻に詫びるしかなかった。

最終日、宮崎空港へ戻る途中、霧島神宮と「高千穂河原」に寄ってみた。「高千穂河原」は「高千穂山」と呼ばれる霧島連山への登山口だった。かつての霧島神宮があった場所で、慶応2(1866)年に坂本龍馬が妻のおりょうと共に新婚旅行で訪れた場所でもあった。

7月中旬に校務の合間を縫って計画した今回の九州旅行だが、私がもっとよく調べておけば、3泊目の宿泊先を霧島温泉に選ぶことは無かった。冷静に考えても「高千穂」といえば「高千穂峡」を指すのだろう。結果として、日本人初の新婚旅行の場所を訪れることができたのだが、東京五輪までには「高千穂峡」を訪れて、今回のリベンジを果たさなくてはならないなど、宮崎16:50発羽田行の日本航空696便の機内にて、そう思った。



昨年の高学祭直前に、平成 21(2009)年から 8 年間、旅行・鉄道研究部の顧問を務めてきた西島正史先生が病気休職された。エナジードリンクを好んで飲用し、以前から体調が良くないようなことをほのめかしていたので、私も含めて多くの教員から心配されていた。昨年 9 月 24 日に学校医の先生の間診および検査により、緊急入院することとなったが、10 月上旬には退院し、しばらくは自宅で療養していた。そして、11 月からの復帰を目指しておられたが、ご本人の体力が戻らず、昨年度いっぱい休職することになった。私は今年 4 月から復帰されるものと考えていたが、悪いことは重なるもので、ご家族のために介護が必要となり、一身上の理由により 3 月末日付けで退職された。

西島先生は HP (ホームページ) 班の活動を中心に指導して頂き、旅行の際も精力的に生徒を引率して下さった。生徒との距離が近く、部員間のトラブルを早期に発見、指導、対応し、またきちんと報告してくれた。先生の退職を知り、私は思わず力が抜けてしまった。

4 年前の停車場で述べたが、過去 8 年にわたり鉄道模型コンテストへ出展する作品の搬入を全て西島先生に託してきた。しかし、とうとう私が車で搬入する時がやってきた。搬入日の 8 月 4 日に向けて、私は自宅から学校や東京ビッグサイトまでの往復を事前に練習した。その甲斐あって、何とか当日も搬入できたし、最終日も搬出できたのだが、会議棟駐車場が満車のため、会場の西 3 ホールから離れた駐車場を利用する羽目になったりと、予期せぬトラブルに見舞われた。おそらく西島先生はこれまでの作品運搬の際、事ある度に生徒へ行っていたアドバイス『うまくやれ』を実践し、うまくやっていたのだろう。今更ながら頭が下がる。

現在は埼玉県川越市のご自宅近くで勤務されていると、風の便りに伺った。どうかお体を大切に頑張ってください。西島先生、8 年間ありがとうございました。



現在の高校 3 年生は、中学 2 年生の時から私が担任している学年である。途中で退部した部員もいるが、多くの生徒は引退まで活動した。部長は選挙で選出されたのに辞退を申し出て波乱の門出となったが、何とか部会を仕切り、頭をひねって知恵を絞り、後輩達をまとめていった。しかし、この学年の部員達は考え方がみな異なり、一言でいえばバラバラであった。不毛な言い争いやネット上での揶揄などで、指導にも気を遣ったことが数多く思い出される。当然、私が把握していない問題もあったことだろう。

一方でみな鉄研を愛していた。昨年の停車場で述べたが、同級生を病で失うという悲しい出来事があった。それでも現高 3 の部員一人一人がこのクラブを盛り上げようと奮闘していた。経路は人それぞれだったが、目的地は同じだった気がする。

既に大学入学は再来年と考えている者もいるようだが、最後まで現役合格をあきらめず、来年 4 月から大学生として旅行や鉄道の研究を続けられるよう、頑張ってください。